

医療・福祉・食品・健康

## 「2013 年度児童虐待相談ケース分析等に関する調査」における被虐待児関連基礎データの検討

研究概要

筆者らは 2013 年 4 月から 5 月の 2 か月間に全国 207 か所の児童相談所に虐待相談として寄せられた 11257 人分のケースを分析した。本研究では、これまで日本の虐待研究では明らかにされていなかった「ネグレクト(同居人による虐待の放置)」および「心理的虐待(主として DV 目撃)」の特徴を解明した。



ライフデザイン学部 生活支援学科 子ども支援学専攻

鈴木 崇之 准教授 Takayuki Suzuki

研究キーワード: 児童虐待防止 児童相談所 子ども家庭相談

URL: <http://researchmap.jp/read0064175/>

### 研究シリーズの内容

筆者は 2013(平成 25)年度に実施された全国児童相談所長会「児童虐待相談ケース分析等に関する調査」(主任研究者桜井豊夫・全国児童相談所長会会長)に分担研究者として参加させていただく機会を得た。

2013 年 4 月から 5 月の 2 か月間に全国 207 か所の児童相談所に虐待相談として寄せられた 11257 人分のケース(回収率 100%)の中で、被虐待に相当した児童数は 7434 人(66%)であった。

本研究に先立つ 2008(平成 20)年度に実施された調査では、2000 年に施行された「児童虐待の防止等に関する法律」に規定されている「身体的虐待」「ネグレクト」「性的虐待」「心理的虐待」虐待の 4 カテゴリーで調査を行っていた。しかし、筆者等は 2004(平成 16)年の「児童虐待の防止等に関する法律」改正において「保護者以外の同居人による前 2 号又は次号に掲げる行為と同様の行為の放置」(第 2 条 3 号)、「児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力」(第 2 条 4 号)が加えられたことを踏まえ、新しく加えられた虐待のカテゴリーを捕捉するために、「身体的虐待」「ネグレクト(同居人による虐待の放置)」「ネグレクト(同居人による虐待の放置を除く)」「性的虐待」「心理的虐待(主として DV 目撃)」「心理的虐待(DV 目撃を除く)」の 6 カテゴリーで調査を行った。

「ネグレクト(同居人による虐待の放置)」は 219 人(2.9%)と比較的少ない数値にとどまった。そして、「ネグレクト(同居人による虐待の放置)」の児童相談所相談受理事業年齢は、6～11 歳が最も高い割合であることがわかった。一方、「心理的虐待(主として DV 目撃)」は 1,245 人(16.7%)と、少ないとはいえない件数であり、児童相談所相談受理事業年齢は 0～5 歳が最も高い割合であった。

	サンプル数	身体的	ネグレクト(同居人による虐待の放置を除く)	ネグレクト(同居人による虐待の放置)	性的虐待	心理的虐待(DV 目撃を除く)	心理的虐待(主として DV 目撃)	無回答
平成25年度調査(種別6分割)	7434 100.0	2434 32.7	1921 25.8	219 2.9	159 2.1	1363 18.3	1245 16.7	93 1.3
平成25年度調査(種別4分割)	7434 100.0	2434 32.7	2140 28.7		159 2.1	2608 35.1		93 1.3
平成20年度調査	8108 100.0	2820 34.8	2697 33.3		28 0.4	1581 19.5		774 9.5

### 活用例・産業界へのアピールポイント

児童相談所(都道府県および指定都市)、市町村等の、子ども家庭相談担当部局における支援体制整備や効果的な支援方法の開発につながる基礎的研究である。

### 特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)

桜井豊夫・川崎二三彦、他 2014 『児童虐待相談のケース分析等に関する調査研究報告書(平成 25 年度児童関連サービス調査研究等事業)』

川崎二三彦・山野良一、他 2014 『シンポジウム『児童虐待相談ケース分析等に関する調査研究結果報告』 全国児童相談所長会事務局編『全児相(通巻 98 号)』:53-140 頁。